

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7684850号
(P7684850)

(45)発行日 令和7年5月28日(2025.5.28)

(24)登録日 令和7年5月20日(2025.5.20)

(51)国際特許分類

F I

A 4 7 B 77/00 (2006.01)

A 4 7 B 77/00

請求項の数 5 (全11頁)

(21)出願番号	特願2021-107807(P2021-107807)	(73)特許権者	000000413
(22)出願日	令和3年6月29日(2021.6.29)		永大産業株式会社
(65)公開番号	特開2023-5704(P2023-5704A)		大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番60号
(43)公開日	令和5年1月18日(2023.1.18)	(74)代理人	100114557
審査請求日	令和6年6月11日(2024.6.11)		弁理士 河野 英仁
		(74)代理人	100078868
			弁理士 河野 登夫
		(72)発明者	鎌田 悠也
			大阪府大阪市住之江区平林南2丁目10番60号 永大産業株式会社内
		審査官	神尾 寧

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 キッチンキャビネット

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】

互いに対向する2枚の側板と、
該2枚の側板を上側から覆う天板と、
該天板を補強する補強部材と
を備えるキッチンキャビネットにおいて、
前記補強部材は、
前記2枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の下面に接触し、前記天板の前辺部における前記2枚の側板の間に位置している部分を下側から覆い、前記天板にビス留め固定される第1帯板と、
該第1帯板の後辺部から垂下する第1リブと、
前記2枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の前記下面に接触し、前記部分よりも後側の部分を下側から覆い、前記天板にビス留め固定される第2帯板と、
該第2帯板の一方の長辺部から垂下する第2リブと、
前記第1リブ及び前記第2リブを互いに連結する連結部と、
前記第2帯板の2つの短辺部から垂下し、前記2枚の側板にビス留め固定される2枚の舌片と
を備えることを特徴とするキッチンキャビネット。

【請求項2】

互いに対向する2枚の側板と、

該 2 枚の側板を上側から覆う天板と、
該天板を補強する補強部材と
を備えるキッチンキャビネットにおいて、
前記補強部材は、
前記 2 枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の下面に接触し、前記天板の前辺部
における前記 2 枚の側板の間に位置している部分を下側から覆う第 1 帯板と、
該第 1 帯板の後辺部から垂下する第 1 リブと、
前記 2 枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の前記下面に接触し、前記部分よりも
後側の部分を下側から覆う第 2 帯板と、
該第 2 帯板の一方の長辺部から垂下する第 2 リブと、
前記第 1 リブ及び前記第 2 リブを互いに連結する連結部と、
前記第 2 帯板の 2 つの短辺部から垂下し、前記 2 枚の側板にビス留め固定される 2 枚の舌
片と
を備えることを特徴とするキッチンキャビネット。

10

【請求項 3】

前記第 1 リブは、前記 2 枚の側板及び前記天板に囲まれた空間に収容される機器の上面と前記天板の前記下面との間隙を目隠しすることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のキッチンキャビネット。

【請求項 4】

前記補強部材は、
前記第 2 帯板の他方の長辺部から垂下する第 3 リブ
を更に備えることを特徴とする請求項 1 から 3 の何れか一項に記載のキッチンキャビネット。

20

【請求項 5】

前記補強部材は前記天板の前記下面よりも耐水性が高いことを特徴とする請求項 1 から 4 の何れか一項に記載のキッチンキャビネット。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本開示は、キッチンキャビネットに関する。

30

【背景技術】

【0002】

特許文献 1 に記載のキッチンキャビネットは箱状をなし、2 枚の側板と天板とに囲まれた空間に食器洗浄乾燥機又はオーブンレンジ等が収容される。2 枚の側板に固定されて天板を下側から覆う補強板が、天板を補強している。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【文献】特開 2017 - 176517 号公報

【発明の概要】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

特許文献 1 に記載のキッチンキャビネットが備える補強板は、天板における 2 枚の側板の間に位置している部分を全面的に覆う。即ち補強板は大型の部材なので、小型の補強部材が望まれている。

【0005】

本開示の目的は、補強部材の小型化を図ることができるキッチンキャビネットを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

50

本開示に係るキッチンキャビネットは、互いに対向する２枚の側板と、該２枚の側板を上側から覆う天板と、該天板を補強する補強部材とを備えるキッチンキャビネットにおいて、前記補強部材は、前記２枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の下面に接触し、前記天板の前辺部における前記２枚の側板の間に位置している部分を下側から覆う第１帯板と、該第１帯板の後辺部から垂下する第１リブと、前記２枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の前記下面に接触し、前記部分よりも後側の部分を下側から覆う第２帯板と、該第２帯板の一方の長辺部から垂下する第２リブと、前記第１リブ及び前記第２リブを互いに連結する連結部とを備えることを特徴とする。

本開示に係るキッチンキャビネットは、互いに対向する２枚の側板と、該２枚の側板を上側から覆う天板と、該天板を補強する補強部材とを備えるキッチンキャビネットにおいて、前記補強部材は、前記２枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の下面に接触し、前記天板の前辺部における前記２枚の側板の間に位置している部分を下側から覆い、前記天板にビス留め固定される第１帯板と、該第１帯板の後辺部から垂下する第１リブと、前記２枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の前記下面に接触し、前記部分よりも後側の部分を下側から覆い、前記天板にビス留め固定される第２帯板と、該第２帯板の一方の長辺部から垂下する第２リブと、前記第１リブ及び前記第２リブを互いに連結する連結部と、前記第２帯板の２つの短辺部から垂下し、前記２枚の側板にビス留め固定される２枚の舌片とを備えることを特徴とする。

本開示に係るキッチンキャビネットは、互いに対向する２枚の側板と、該２枚の側板を上側から覆う天板と、該天板を補強する補強部材とを備えるキッチンキャビネットにおいて、前記補強部材は、前記２枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の下面に接触し、前記天板の前辺部における前記２枚の側板の間に位置している部分を下側から覆う第１帯板と、該第１帯板の後辺部から垂下する第１リブと、前記２枚の側板の対向方向に延び、一面が前記天板の前記下面に接触し、前記部分よりも後側の部分を下側から覆う第２帯板と、該第２帯板の一方の長辺部から垂下する第２リブと、前記第１リブ及び前記第２リブを互いに連結する連結部と、前記第２帯板の２つの短辺部から垂下し、前記２枚の側板にビス留め固定される２枚の舌片とを備えることを特徴とする。

【０００７】

本開示にあっては、第１帯板及び第２帯板が天板を下側から覆うことにより、天板の前辺部における２枚の側板の間に位置している部分と、この部分よりも後ろ側の部分とを補強することができる。この結果、天板における第１帯板及び第２帯板が直接的に補強している部分の近傍も補強することができる。

キッチンキャビネットの使用時、一般に外力は天板の前辺部に加わる。外力が集中しやすい部分を補強部材が補強するので、天板における２枚の側板の間に位置している部分を全面的に覆う必要はない。故に、補強部材の小型化を図ることができる。

【０００８】

第１帯板及び第２帯板は第１リブ及び第２リブによって補強されるので、天板の補強に有利である。

第１リブと第２リブとが連結部により互いに連結されるので、第１帯板及び第２帯板を一体的に取り扱うことができる。

【０００９】

本開示に係るキッチンキャビネットは、前記第１リブは、前記２枚の側板及び前記天板に囲まれた空間に収容される機器の上面と前記天板の前記下面との間隙を目隠しすることを特徴とする。

【００１０】

本開示にあっては、２枚の側板と天板とに囲まれた空間に収容される機器の上面と天板の下面との間隙を第１リブが目隠しする。故に美観が向上する。第１リブは、天板の前辺部にある第１帯板の後辺部から垂下しているので、一般的な機器の前扉が配される空間よりも後側に位置する。故に、第１リブが機器の前扉に干渉する虞はない。

【００１１】

本開示に係るキッチンキャビネットは、前記第 1 帯板及び前記第 2 帯板は、前記天板に夫々ビス留め固定され、前記補強部材は、前記第 2 帯板の 2 つの短辺部から垂下し、前記 2 枚の側板にビス留め固定される 2 枚の舌片を更に備えることを特徴とする。

【 0 0 1 2 】

本開示にあっては、補強部材の第 1 帯板及び第 2 帯板が天板に夫々ビス留め固定される。補強部材が天板に密着するので、天板を確実に補強することができる。

また、補強部材の 2 枚の舌片が 2 枚の側板にビス留め固定される。故に、天板に加わった外力を補強部材で受け、受けた外力を 2 枚の側板で受けることができる。

【 0 0 1 3 】

本開示に係るキッチンキャビネットは、前記補強部材は、前記第 2 帯板の他方の長辺部から垂下する第 3 リブを更に備えることを特徴とする。

10

【 0 0 1 4 】

本開示にあっては、第 2 帯板が第 3 リブによって更に補強されるので、天板の補強により有利である。

【 0 0 1 5 】

本開示に係るキッチンキャビネットは、前記補強部材は前記天板の前記下面よりも耐水性が高いことを特徴とする。

【 0 0 1 6 】

本開示にあっては、耐水性が高い補強部材が天板の下面を下側から覆う。

2 枚の側板と天板とに囲まれた空間に機器が収容され、収容される機器の前部開口から大量の水蒸気が噴出する場合であっても、水蒸気が天板に接触することを補強部材が阻止する。故に、天板が大量の水蒸気を吸収して天板に変形又は変色、或いはカビ等が生じることを防止することができる。

20

【発明の効果】

【 0 0 1 7 】

本開示のキッチンキャビネットによれば、補強部材の小型化を図ることができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 8 】

【図 1】実施の形態 1 に係るキッチンキャビネットの斜視図である。

【図 2】キッチンキャビネットの拡大正面図である。

30

【図 3】図 2 における I I I - I I I 線による断面図である。

【図 4】補強部材の斜視図である。

【図 5】実施の形態 2 に係るキッチンキャビネットの断面図である。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 9 】

以下、本開示の実施の形態について説明する。以下の説明では、図において矢符で示す上下、前後、及び左右を使用する。

【 0 0 2 0 】

実施の形態 1 .

図 1 は、実施の形態 1 に係るキッチンキャビネットの斜視図である。

40

図中 1 はキッチンキャビネットであり、キッチンキャビネット 1 は 2 枚の第 1 側板 1 1、背板 1 2、及び天板 1 3 を備える。第 1 側板 1 1、背板 1 2、及び天板 1 3 は夫々矩形形状をなす。

2 枚の第 1 側板 1 1 は左右方向に離れて互いに向かい合っている。背板 1 2 は 2 枚の第 1 側板 1 1 の後辺部同士の間架け渡されている。天板 1 3 は 2 枚の第 1 側板 1 1 の上辺部同士の間架け渡されている。

【 0 0 2 1 】

キッチンキャビネット 1 は 3 枚の第 2 側板 1 4 1、1 4 2、1 4 3 を備える。第 2 側板 1 4 1、1 4 2、1 4 3 は左右方向に離れて互いに向かい合っている。第 2 側板 1 4 1、1 4 2、1 4 3 夫々は、2 枚の第 1 側板 1 1 と背板 1 2 と天板 1 3 に囲まれた空間を左右

50

に仕切る仕切り板である。第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 , 1 4 3 は左側から右側に向けてこの順に並んでいる。第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 , 1 4 3 夫々の前端面の前後方向の位置は同じである。

天板 1 3 は第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 , 1 4 3 を上側から覆い、第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 , 1 4 3 に下側から支持されている。

【 0 0 2 2 】

図においては、左側の第 1 側板 1 1 と第 2 側板 1 4 1 との間に図示しない上下 2 段の抽斗が収容される。同様に、第 2 側板 1 4 2 , 1 4 3 間、及び、第 2 側板 1 4 3 と右側の第 1 側板 1 1 との間にも、図示しない抽斗が収容される。

【 0 0 2 3 】

以下では、背板 1 2 と天板 1 3 と第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 (側板) とキッチンキャビネット 1 が設置された床とに囲まれた空間を収容部 1 0 という。

図 2 は、キッチンキャビネット 1 の拡大正面図であり、収容部 1 0 を示している。

図 3 は、図 2 における I I I - I I I 線による断面図である。

天板 1 3 は第 2 側板 1 4 2 (及び第 2 側板 1 4 1) の前端面よりも前側に適長延びる。

【 0 0 2 4 】

図 2 及び図 3 に示すように、収容部 1 0 には機器 2 が収容される。機器 2 は例えば食器洗浄乾燥機であり、機器本体 2 1 と前扉 2 2 とを備える。図示はしないが、機器本体 2 1 は一面が全面的に開口している矩形箱型をなす。前扉 2 2 は機器本体 2 1 の開口を開閉可能に覆う。

機器 2 は、収容部 1 0 において前扉 2 2 が前に向くようにして床に載置される。機器 2 の上面は天板 1 3 の下面から適長離隔する。前扉 2 2 の前面の前後方向の位置は天板 1 3 の前端面の前後方向の位置と同じである。

機器 2 の上面と天板 1 3 の下面との間に補強部材 3 が配される。

【 0 0 2 5 】

図 4 は、補強部材 3 の斜視図である。

補強部材 3 は耐水性を有し、例えば金属製である。図 3 及び図 4 に示すように、補強部材 3 は 2 枚の帯板 3 1 , 3 2、4 枚のリブ 3 3 ~ 3 6、及び 2 枚の舌片 3 7 を一体的に備える。

【 0 0 2 6 】

帯板 3 1 (第 1 帯板) は収容部 1 0 の間口の長さ (第 2 側板 1 4 1 の右面と第 2 側板 1 4 2 の左面との離隔距離) と同程度の長さを有する。

リブ 3 3 (第 1 リブ) は帯板であり、長さ及び厚さが帯板 3 1 の長さ及び厚さと同じである。リブ 3 3 は、長さ方向が帯板 3 1 の長さ方向に沿うようにして、帯板 3 1 の一方の長辺部から帯板 3 1 に垂直に延出している。リブ 3 3 は帯板 3 1 の全長にわたり、帯板 3 1 を補強する。

【 0 0 2 7 】

帯板 3 2 (第 2 帯板) の長さ及び厚さは帯板 3 1 の長さ及び厚さと同じである。図に示す帯板 3 2 の幅 (長さ及び厚さ夫々に直交する方向の寸法) は帯板 3 1 の幅よりも大きい。

リブ 3 4 , 3 5 (第 2 リブ及び第 3 リブ) 夫々は帯板であり、長さ及び厚さが帯板 3 2 の長さ及び厚さと同じである。リブ 3 4 (及びリブ 3 5) は、長さ方向が帯板 3 2 の長さ方向に沿うようにして、帯板 3 2 の一方 (及び他方) の長辺部から帯板 3 2 に垂直に延出している。リブ 3 4 , 3 5 夫々の帯板 3 2 から延出する向きは同じである。リブ 3 4 , 3 5 夫々は帯板 3 2 の全長にわたり、帯板 3 2 を補強する。

【 0 0 2 8 】

リブ 3 6 は帯板であり、長さ及び厚さが帯板 3 1 の長さ及び厚さと同じである。

リブ 3 6 は、長さ方向が帯板 3 1 の長さ方向に沿うようにして、リブ 3 3 の先端部から帯板 3 1 に平行に延出している。帯板 3 1 及びリブ 3 6 は相反する向きにリブ 3 3 から突出している。且つ、リブ 3 6 は、長さ方向が帯板 3 2 の長さ方向に沿うようにして、リブ 3 4 の先端部から帯板 3 2 に平行に延出している。帯板 3 2 及びリブ 3 6 は相反する向き

10

20

30

40

50

にリブ 3 4 から突出している。

以上の結果、リブ 3 6 はリブ 3 3 , 3 4 の先端部同士を互いに連結する連結部として機能する。リブ 3 6 はリブ 3 3 , 3 4 夫々の全長にわたり、リブ 3 3 , 3 4 夫々を補強する。

【 0 0 2 9 】

2 枚の舌片 3 7 は矩形板状をなす。2 枚の舌片 3 7 は帯板 3 2 の短辺部から帯板 3 2 に垂直に延出している。舌片 3 7 の帯板 3 2 から延出する向きはリブ 3 4 , 3 5 夫々の帯板 3 2 から延出する向きと同じである。

リブ 3 3 の帯板 3 1 からの突出量とリブ 3 4 , 3 5 夫々の帯板 3 2 からの突出量とは互いに同程度である。舌片 3 7 の帯板 3 2 からの突出量はリブ 3 4 , 3 5 夫々の帯板 3 2 からの突出量以下である。

10

【 0 0 3 0 】

帯板 3 1 , 3 2 夫々には、複数の貫通孔が長さ方向に並設されている。各舌片 3 7 には、複数の貫通孔が帯板 3 2 の幅方向に並設されている。これらの貫通孔には、後述するビス留め固定の際にビス 4 1 , 4 2 が挿し通される。

【 0 0 3 1 】

以上のような補強部材 3 は、例えば 1 枚の金属板を折り曲げることによって容易に形成することができる。なお、帯板 3 1 , 3 2、リブ 3 3 ~ 3 6、及び舌片 3 7 が金属板から個別に切り出され、例えば溶接によって一体化されることによって補強部材 3 が形成されてもよい。

【 0 0 3 2 】

20

図 3 に示すように、本実施の形態の天板 1 3 は天板本体 1 3 1 とカバー 1 3 2 とを備える。

天板本体 1 3 1 は一方向に長い矩形の板材である。天板本体 1 3 1 は、幅方向が前後に向き、厚さ方向が上下に向くようにして、2 枚の第 1 側板 1 1 (図 1 参照) の間に架け渡されている。

天板本体 1 3 1 は耐水性が低く、例えば木製 (無垢材製又は木質材製) である。

【 0 0 3 3 】

カバー 1 3 2 は天板本体 1 3 1 よりも薄い板材であり、天板本体 1 3 1 の上面及び前端面を覆っている。カバー 1 3 2 において、天板本体 1 3 1 の前端面を覆う部分は、天板本体 1 3 1 の上面を覆う部分の前端から垂下している。以下、カバー 1 3 2 における天板本体 1 3 1 の前端面を覆う部分を垂下部分 1 3 a という。

30

【 0 0 3 4 】

カバー 1 3 2 は耐水性が高く、例えば金属製である。カバー 1 3 2 は、例えば 1 枚の金属板を折り曲げることによって形成され、天板本体 1 3 1 に固定される。垂下部分 1 3 a の下部は後向きに折り返されてから更に上側に折り返されている。故に、垂下部分 1 3 a の下端に鋭利な部分は存在しない。

天板本体 1 3 1 の下面がカバー 1 3 2 に覆われていないので、天板 1 3 の下面は耐水性が低い。

【 0 0 3 5 】

補強部材 3 を天板 1 3 に取り付ける場合、帯板 3 1 , 3 2 夫々は、夫々が左右方向に延び、夫々の一面が天板本体 1 3 1 の下面に接触するようにして、ビス 4 1 を用いて天板本体 1 3 1 に下側からビス留め固定される。このとき、帯板 3 2 は帯板 3 1 の後側に配される。

40

以下では、天板 1 3 の前辺部における収容部 1 0 に位置している部分を被補強部分 1 3 b という (図 2 参照) 。

【 0 0 3 6 】

帯板 3 1 は、被補強部分 1 3 b の下面を左右方向の全長にわたって覆う。帯板 3 1 の前端面は、カバー 1 3 2 の垂下部分 1 3 a により目隠しされる。帯板 3 1 の後辺部からリブ 3 3 が垂下する。帯板 3 1 は第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 夫々の前端面よりも前側に延びる。

帯板 3 2 は天板 1 3 の被補強部分 1 3 b よりも後側の部分の下面を左右方向の全長にわ

50

たって覆う。リブ 3 4 は帯板 3 2 の前辺部から垂下し、リブ 3 5 は帯板 3 2 の後辺部から垂下する。帯板 3 2 の右辺部から垂下する舌片 3 7 は、ビス 4 2 を用いて第 2 側板 1 4 2 に左側からビス留め固定される。同様に、帯板 3 2 の左辺部から垂下する舌片 3 7 は、ビス 4 2 を用いて第 2 側板 1 4 1 に右側からビス留め固定される。

【 0 0 3 7 】

以上のようなキッチンキャビネット 1 によれば、帯板 3 1 , 3 2 が天板 1 3 を下側から覆うことにより、天板 1 3 の被補強部分 1 3 b と天板 1 3 の被補強部分 1 3 b よりも後側の部分とを左右方向の全長にわたって補強することができる。この結果、天板 1 3 における帯板 3 1 , 3 2 が直接的に補強している部分の近傍も補強することができる。

キッチンキャビネット 1 の使用中、一般に外力は天板 1 3 の前辺部に加わる。外力が集中しやすい部分を補強部材 3 が補強するので、天板 1 3 における収容部 1 0 に位置している部分を全面的に覆う必要はない。故に、補強部材 3 の小型化を図ることができる。

10

【 0 0 3 8 】

帯板 3 1 , 3 2 が天板 1 3 に夫々ビス留め固定されていることにより、補強部材 3 が天板 1 3 に密着するので、天板 1 3 を確実に補強することができる。

帯板 3 1 , 3 2 はリブ 3 3 ~ 3 5 によって補強され、リブ 3 3 , 3 4 はリブ 3 6 によって補強されるので、天板 1 3 の補強に有利である。

リブ 3 3 , 3 4 がリブ 3 6 により互いに連結されるので、帯板 3 1 , 3 2 を一体的に取り扱うことができる。

【 0 0 3 9 】

20

補強部材 3 の取り付け後、収容部 1 0 に機器 2 が設置される。このとき、補強部材 3 のリブ 3 6 の下面が機器 2 の機器本体 2 1 の上面の前辺部に対向する。リブ 3 6 と機器本体 2 1 との間の空隙はほとんどない。この結果、機器本体 2 1 と天板 1 3 との間の空隙がリブ 3 3 によって前側から目隠しされる。故に美観が向上する。

機器 2 の前扉 2 2 が閉じられている場合、前扉 2 2 の上端面と補強部材 3 の帯板 3 1 とが上下に互に対向し、両者の間には空隙が生じる。しかしながら、帯板 3 1 は天板 1 3 に目隠しされており、前扉 2 2 の上端面は一般に化粧されているので、美観を損なう虞はない。

【 0 0 4 0 】

リブ 3 3 は機器本体 2 1 の直上にある。即ち、リブ 3 3 は前扉 2 2 が配される空間よりも後側に位置する。故に、たとえ前扉 2 2 の上端面の位置が機器本体 2 1 の上面の位置よりも上側にあったとしても、補強部材 3 が前扉 2 2 に干渉する虞はない。

30

【 0 0 4 1 】

2 枚の舌片 3 7 が第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 にビス留め固定されるので、天板 1 3 に加わった外力を補強部材 3 で受け、受けた外力を第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 で受けることができる。

舌片 3 7 は帯板 3 2 の短辺部から垂下し、帯板 3 1 には設けられていないので、舌片 3 7 及び舌片 3 7 を固定するビス 4 2 が使用者の目に付き、美観を損ねる虞はない。

【 0 0 4 2 】

機器 2 の前扉 2 2 を開けた場合、機器本体 2 1 の前部開口から大量の水蒸気が噴出することがある。しかしながら、補強部材 3 は、水蒸気が天板 1 3 の下面に接触することを阻止する。故に、天板 1 3 が大量の水蒸気を吸収して天板 1 3 に変形又は変色、或いはカビ等が生じることを防止することができる。

40

【 0 0 4 3 】

なお、機器 2 は食器洗浄乾燥機に限定されず、オーブンレンジ又は冷蔵庫等でもよい。

収容部 1 0 は機器 2 が収納される構成に限定されず、例えばゴミ箱、ワゴン等が収納されてもよい。

リブ 3 3 ~ 3 6 夫々は帯板 3 1 の長さ方向に複数に分割された構成でもよい。

リブ 3 6 は帯板に限定されない。リブ 3 6 はリブ 3 3 , 3 4 夫々の先端部以外を互いに連結する構成でもよい。リブ 3 6 はリブ 3 3 , 3 5 を互いに連結する構成でもよい。

50

【 0 0 4 4 】

舌片 3 7 が省略されるか、又は、帯板 3 1 , 3 2 のビス留め固定が省略されてもよい。

帯板 3 1 の前端部が第 2 側板 1 4 1 , 1 4 2 夫々の前端面よりも後側にある場合、帯板 3 1 の短辺部に舌片 3 7 が設けられてもよい。この場合、帯板 3 2 の舌片 3 7 は省略してもよい。

【 0 0 4 5 】

実施の形態 2 .

本実施の形態のキッチンキャビネット 1 は、天板 1 3 及び補強部材 3 の構成を除き、実施の形態 1 のキッチンキャビネット 1 と略同様である。以下では、実施の形態 1 との差異について説明し、その他、実施の形態 1 と同一の構成要素には同一の符号を付してそれらの説明を省略する。

10

【 0 0 4 6 】

図 5 は、実施の形態 2 に係るキッチンキャビネット 1 の断面図である。

本実施の形態の天板 1 3 は帯状部材 1 3 3 を更に備える。

帯状部材 1 3 3 は被補強部分 1 3 b の下面に固定されており、被補強部分 1 3 b の下面の化粧、又は被補強部分 1 3 b の補強等の機能を有する。

【 0 0 4 7 】

本実施の形態の補強部材 3 において、リブ 3 3 の帯板 3 1 からの突出量はリブ 3 4 , 3 5 夫々の帯板 3 2 からの突出量よりも小さい。帯板 3 1 は帯状部材 1 3 3 を介して天板本体 1 3 1 にビス留め固定されている。天板 1 3 に取り付けられた補強部材 3 において、帯板 3 1 の床からの高さは帯板 3 2 の床からの高さよりも帯状部材 1 3 3 の厚さ分だけ低い。

20

このように、天板 1 3 の形状が実施の形態 1 の天板 1 3 の形状とは異なる場合でも、実施の形態 1 の場合と同様に、機器 2 に干渉しない構成を有する小型の補強部材 3 を用いて天板 1 3 を補強することができる。

【 0 0 4 8 】

今回開示された実施の形態は、全ての点で例示であって、制限的なものではないと考えられるべきである。本発明の範囲は、上述した意味ではなく、特許請求の範囲と均等の意味及び特許請求の範囲内での全ての変更が含まれることが意図される。

各実施の形態に開示されている構成要件（技術的特徴）はお互いに組み合わせ可能であり、組み合わせによって新しい技術的特徴を形成することができる。

30

【符号の説明】

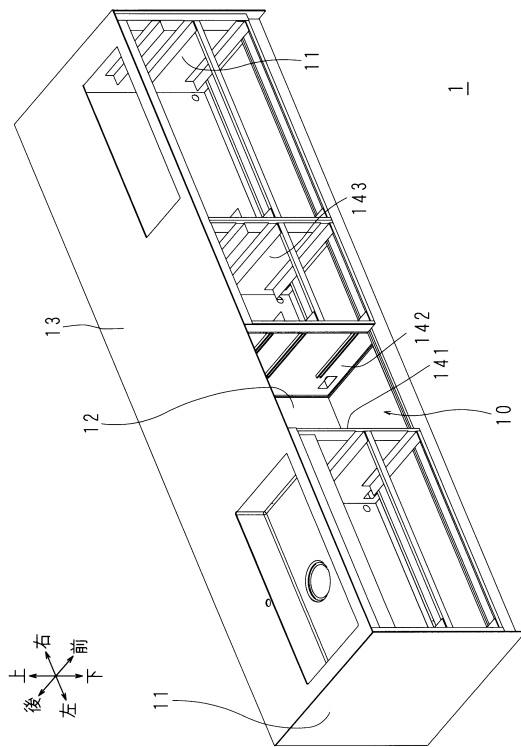
【 0 0 4 9 】

- 1 キッチンキャビネット
- 1 3 天板
- 1 3 b 被補強部分（天板の前辺部における 2 枚の側板の間に位置している部分）
- 1 4 1 , 1 4 2 第 2 側板（側板）
- 2 機器
- 3 補強部材
- 3 1 帯板（第 1 帯板）
- 3 2 帯板（第 2 帯板）
- 3 3 リブ（第 1 リブ）
- 3 4 リブ（第 2 リブ）
- 3 5 リブ（第 3 リブ）
- 3 6 リブ（連結部）
- 3 7 舌片

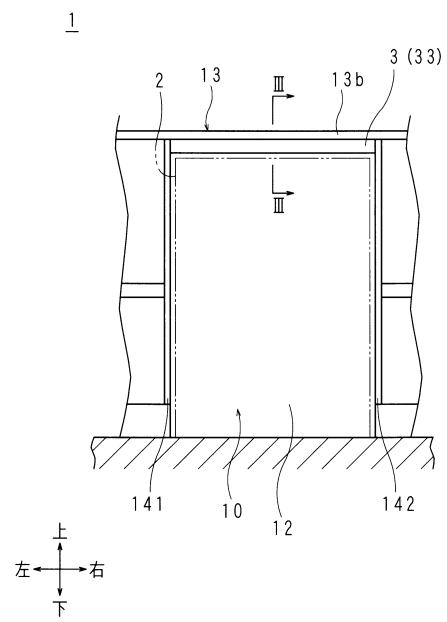
40

【図面】

【図 1】



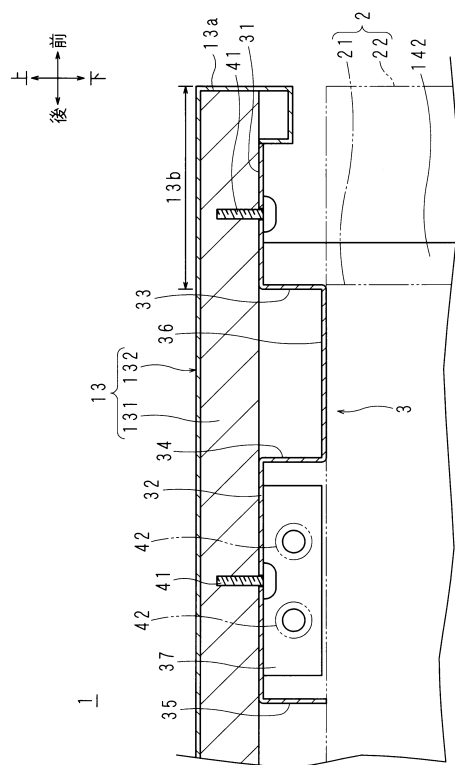
【図 2】



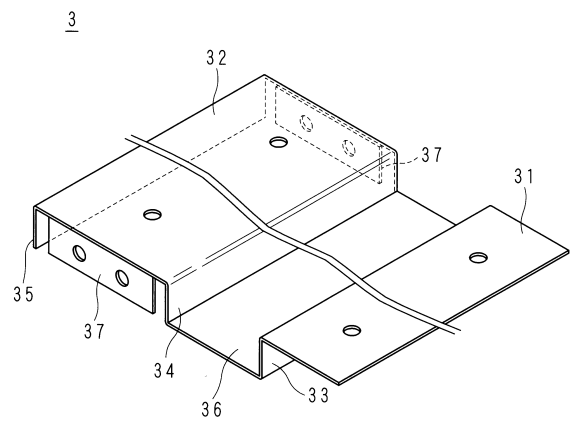
10

20

【図 3】



【図 4】

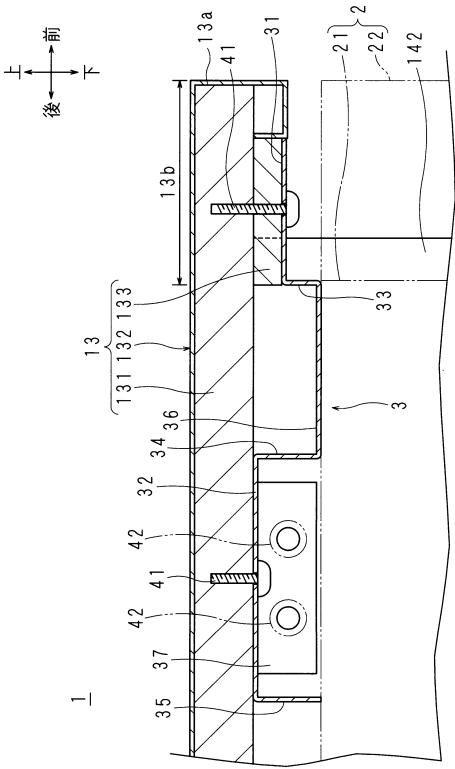


30

40

50

【図 5】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

- (56)参考文献 特開 2 0 1 7 - 1 7 6 5 1 7 (J P , A)
再公表特許第 0 8 / 0 2 3 7 9 4 (J P , A 1)
特開 2 0 2 0 - 1 1 0 3 7 0 (J P , A)
実開昭 5 5 - 1 0 0 5 3 6 (J P , U)
- (58)調査した分野 (Int.Cl. , D B 名)
- | | |
|---------|-----------|
| A 4 7 B | 7 7 / 0 0 |
| A 4 7 B | 7 7 / 0 8 |
| B 2 1 D | 4 7 / 0 0 |
| F 1 6 F | 1 5 / 0 2 |